

## なすまどか議員が市民の願いを届け一般質問

### 高齢者生きがい作業所廃止の見直しを！

陶芸、手芸、木工、園芸などを通じて、高齢者の生きがいを支え、大切な居場所となっているのが高齢者生きがい作業所です。熊本市は、「利用者の減少」「民間のカルチャースクールにいけばいい」などを理由に、廃止の方針を打ち出しました。なす議員は「1年の講座を終え、その後も作業所に通う高齢者は600人。必要な予算は年間350万円であり、高齢者のかげがえのない居場所を奪うことは許されない」と指摘し、存続を求め

ました。幸山市長は「建物の利活用、陶芸窯の移設なども含め検討したい。」と答弁しました。

他党派とも協力し、存続のために力を尽くします。



生きがい作業所への聞き取り

### 利用者の声反映されない「事務事業外部評価会議」は中止すべき

なす議員は、高齢者生きがい作業所の廃止となった理由の一つが「事務事業外部評価会議（熊本市版事業仕分け）」にあることを指摘。利用者の声が反映されず、採

算性や効率性のモノサシで市民に大切な事業を切り捨てるような評価会議はやめるべきと指摘しました。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市手取本町1-1 議会棟3階

NO. 879

2013年12月15日

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

ホーム：<http://www.jcp-kumamoto.com/>

### 熊本五福幼稚園、古町幼稚園の存続を！

教育委員会は、市立幼稚園のあり方を見直す中で、熊本五福幼稚園、古町幼稚園を閉園する方針を示しました。閉園の理由として、園児の充足率が低いこと、新たな取り組みの中で人を確保する必要があるとしていることに対して、なす議員は「定員を増やす努力を保護者と知恵を出し合いながら進めることが先ではないか」「人が必要ならば閉園という方法ではなく、新た

に人を増やすべき」と指摘。「再開費に350億円もの税金を投入するお金があるのならば、幼稚園の存続に力を尽くすべき」と存続を求めました。答弁に立った教育長は「市の方針を理解してもらうよう説明を行う」などあくまで閉園を押し付ける答弁に終始しました。

### 子ども医療費の拡充、認可外保育所への支援強化を

子ども医療費無料化については、益城町、菊池市、菊陽町、甲佐町、嘉島町、西原村で中学3年まで、合志市、大津町、御船町は小学校6年までと、周辺の市町村と比べ、熊本市が小学3年まで（一部自己負担あり）と遅れている現状を指摘。早急に対象年齢を引き上げることを

求めました。

また、2000人の子どもが通う認可外保育所については、人件費なども含めて運営費助成を拡充すること。さらには、認可園と同様、2人目の保育料半額、3人目以降の保育料無料を実施するよう求めました。

### 大型ハコモノの維持費だけで実現可能

裏面で特集している桜町の再開費には、350億円の税金が投入されようとしているほか、建物の維持管理だけでも年間8億6000万円となっています。質問で取り上げた福祉、教育、子育て支援の充実は、この維持管理費分だけで実現可能です。巨大なハコモノに突き進むのではなく、住民の暮らしと福祉の充実に取り組むべきです。

# 桜町大会議場整備 350 億円は、1 世帯 10 万円もの負担です

市民の声に耳を貸さずに、整備を急ぐ幸山市長は、なすまどか議員の質問にまともに答えられませんでした

## なぜ、産業文化会館だけ先に解体するのか、理由の説明なし

今 12 月議会には、産業文化会館解体の業者を決める議案が提出されています。可決すれば、来年 1 月にも、市長は産文会館解体の意向です。しかし議会は、広場整備にあたり、花畑公園の隣の駐車場を一体に整備することを求めています。

市長は、駐車場部分の買収見通しも示していません。今のまま産業文化会館だけ先に壊せば、市議会特別委員会の取りまとめを踏みにじることになります。性急に、産業文化会館だけ解体すべきではありません。

## 産業文化会館に代わる「中規模ホール」の見通しがありません

市議会特別委員会の取りまとめでは、中心市街地に「中規模ホール」を確保することを求めています。なす議員は、中規模ホールを中心市街地にどのように整備するのか質しました。

市長は、市民会館大ホールの 1 階部分や森都心ホールの利用で代替すると、「中規模ホール」の役割を理解しない無責任な答弁をしました。今のままでは、中心部に「中規模ホール」は整備されません。

## 「花畑広場」の利用見通し、シンボルプロムナードでできるものばかり

現在市が示している花畑広場の利用見通しは、城下町大にぎわい市などの既存の大型イベントに加え、フリーマーケット・ライブ・植木市・カフェなど、そのほとんどが、シンボルプロムナードでできることばかりです。

なす議員は、できないものは「エコスケートリンク」と「フットサル」ぐらいで、その来場者数は年間 12,000 人程度であることから、20 億円もの広場整備は大きなムダづかいであると指摘しました。

## 納得できない 1 世帯 10 万円もの負担

過去最大 350 億円もの投資となる「桜町大会議場」は、1 世帯あたり 10 万円もの税金を市民が負担することになります。



## 大会議場の土地 85 億円、これでは「土地ころがし」の再開発

桜町再開発の土地は、過去県庁跡地を、交通センターがターミナル法に基づく公共的施設であることと、市が多額に出資する第 3 セクターという特別な理由で、時価・坪 40~50 万円（総額 40 数億円）を、坪 12 万円（総額約 11 億円）の格安価格で交通センターに提供されました。2000 年に市所有の株を交通センターに譲渡する時も、設立時の安い「簿価」をもとに株価が計算されました。その後、九州産交が交通センターを

合併した時も、「時価」計算で取得すべきところ、設立時の格安「簿価」で手に入れました。ところが九州産交は、合併と同時に資産の再評価をし、「240 億円の含み益」を生み出しました。

このように、九州産交は、再開発用地を格安で手に入れ、再開発を行うに当たり数百億円の価値で利用しようとしています。まるで、「再開発」という手法を使った「土地ころがし」です。

## 市の将来を左右する大事業、「住民投票」で是非を問うべき

過去最大の投資となる桜町再開発・大会議場整備は、市の将来を左右するような大事業です。なす議員は、市長自身が制定した「自治基本

条例」に規定されている「住民投票」を自ら発議し、市民に整備の是非を問うべきと迫りました。